

まつだい棚田バンクの 1 年間

豪雪から水が豊かな春、雨の降らない夏、稲刈りしようとしたら雨。天気と歩調の合わない日々が続いています。

春



種籾の浸水

苗出し直後の苗

育ってきた苗

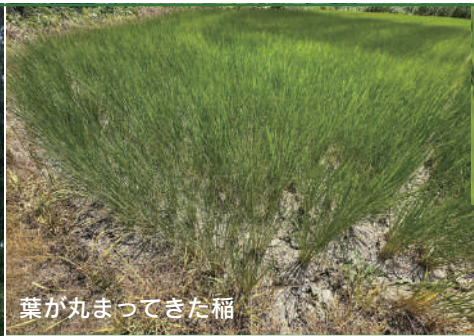
田植え

少し後の稲

今年は 1600 箱の苗箱に種をまき、苗を育てました。耕作面積が増えたため今までで一番多い箱数となりました。田植えは 5 月 20 日頃から、例年より 10 日遅れではじまりました。昨年の豪雪により雪解けが遅かったためです。しかし、水が潤沢にあったため作業はスムーズに進み、6 月 15 日頃、昨年より早く終わりました（昨年は水がなく作業に時間がかかりました）。

耕作チームには新人 2 名が加わりました。慣れない農道の運転にひやひやし、果てしない数の苗箱洗い作業に呆然とし、さまざまな重いもの一苗箱、肥料と遭遇してこの先の不安を感じつつも、稲が育っていく姿を励みに頑張りました。

夏



干上がったため池

葉が丸まってきた稲

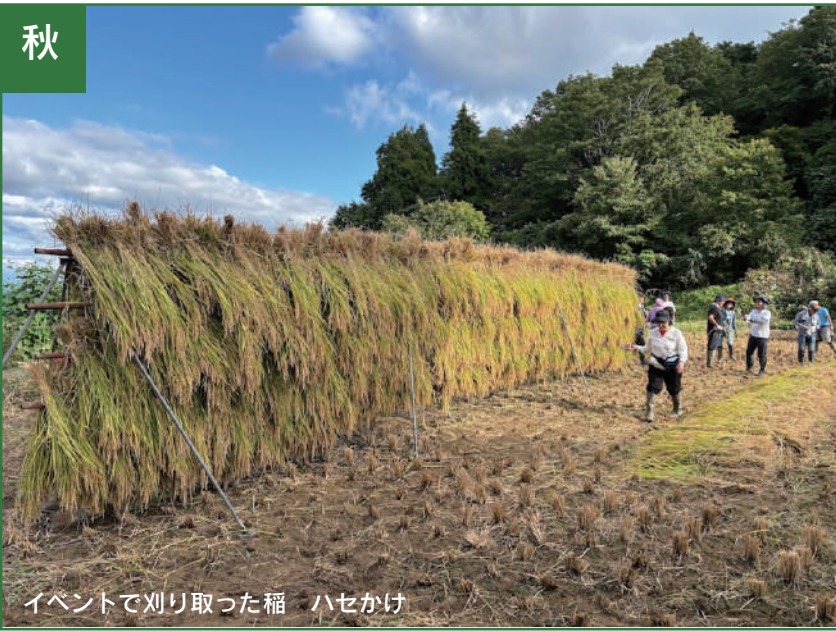
少し回復

危機脱出

田植えまでは調子が良かったものの、その後雨が降りません。左はため池の写真、上は葉が縮れてしまった稲の写真。

1 カ月以上全く雨が降らず、もうだめかと絶望しかけたところ、8 月になってまとまった雨が少し降り、なんとか稲は生き延びました。右上は回復してきた稲の様子。給水の努力と幸運の両方の結果です。

秋



イベントで刈り取った稲

ハセかけ

稲穂

田んぼに亀裂が

獣の足跡

稲刈り時期がやってきました。雨の日が多くなりました🌧️。イベントも日曜日は雨でしたね。稲刈り日和が少なく、雨の合間を縫って作業を進めています。

田んぼには急激な雨による亀裂が入ったり、お米を狙う獣の足跡があったり、最後まで気が抜けません。

乾燥・調整・出荷の作業もまだまだ続き、秋は忙しいです。

農作業イベント 今年は大変多くの会員様にご参加いただきました



田植え 6/7（土）、8（日）計 283 名

米不足、天候不振などの課題をを心配して、みなさんの関心が高まり大勢の方が駆けつけてくださったのを感じました。まつだい「農舞台」フィールドミュージアム中の田植えがほぼ 2 日間で完了しました。昨年と違って、豊富な雪解け水がたまった田んぼで田植えをしました。

夏を楽しむ日 7/19（土）計 46 名

今年も草刈り、畑で収穫と調理、生き物観察会そして夜には花火鑑賞と BBQ を行いました。雨が降らず、おなじみの邦夫さんの畑に伺うことができませんでしたが、アーさんの畑や滝沢山菜取りを行いました。

稲刈り 10/4（土）、5（日）計 237 名

稲を鎌で刈って、午後からハセにかけました。刈ること自体より束ねるのが難しい、とのお声を聞きました。うまく伝授できる方法を検討したいです。日曜日は雨となり作業は大変でしたが、おかげで生き物観察会ではたくさんのカエルを観察することができました。

師父のみなさんから



赤トンボとカエルと青い空
とおいしいお米がまってる
よー。 来年も来てねー。



田植えから稲刈り
大変わりつけのう。

来年も来てくんねかい。



やっぱり棚田はあった
かいね♡
来春までアチャね。
待ってるよ。



お米が高くなって、
ごめんね。

保全面積と収量、品質

合計 180 枚 115,457 m²の棚田を保全し
21,150kg のお米を収穫しました（保全管理 11 枚 4,810 m²を含む）

エリア名	田んぼの枚数	面積	収穫量	1 反当たりの収量	品種
峠	60 枚	48,917 m ²	11,070kg	3.7 俵	コシヒカリ BL
木和田原	3 枚	7,320 m ²	2,040kg	4.6 俵	コシヒカリ BL
儀明沢	9 枚	4,980 m ²	750kg	2.5 俵	コシヒカリ BL
室野	49 枚	30,880 m ²	5,250kg	2.8 俵	コシヒカリ BL
松代北	14 枚	8,390 m ²	1,020kg	2.0 俵	こがねもち
農舞台※1	33 枚	9,810 m ²	1,020kg	1.7 俵	コシヒカリ BL

※1＝まつだい「農舞台」フィールドミュージアム
※1 反（＝1,000 m²）当りの収量は反収（たんしゅう）といってお米の収穫量の目安となります。1 俵は 60 kg です。
計算がややこしいですが良かったら計算してみてください。

まつだいの出来事

棚田の生き物観察会

農作業イベントの生き物観察会の講師を毎回務めてくださっている、「森の学校」キョロロの富塚茂和さんから、メッセージをいただきました。

日本の原風景の一つとされる棚田。今では貴重となった昔ながらの棚田は多様な生物の宝庫でもあります。

まつだい棚田バンクの「田植え」、「草刈り」、「稲刈り」の各イベントでは、農業体験と並行して伝統的な棚田に生息する生物を採集・観察する生き物観察会も開催されました。

3つのシーズンに分けて開催された本イベント。季節の変化と共に現れる生き物も変化していきました。初夏の田んぼにはニホンアカガエルなどのオタマジャクシが数えきれないほど泳ぎ回り、ため池では白いアケビの実のような形をしたクロサンショウウオの卵塊を見つけられました。夏には今や絶滅危惧種となったトノサマガエルや様々なバッタを観察でき、稲刈り直後の田んぼの上空には多数のアキアカネが飛び回っていました。ため池の卵から孵化したクロサンショウウ



左から、春の観察会、夏の観察会、秋の観察会

オの幼生は、秋にはすっかり大きくなった姿で再開できました。参加者の皆様は大人も子どもも普段は見かけない生き物に夢中になりながら楽しんでいただくことができました。お米作りだけでないまつだい棚田バンクの魅力。今後も生き物観察会を通じて農業体験とは異なる切り口でその魅力をオーナーの皆様へ発信していきたいと思ひます。

季節を追っていくと、どの幼生がどんな成虫に育っていくのかなど、詳しく知ることと同じように見えるカエルや虫にも違いがあることが分かり、より興味がわいてきます。来年も生き物観察会をお楽しみに！

棚田の生き物クイズ 観察会に参加したこどもたちが考えてくれた、生き物クイズを紹介します

問題①

シオカラトンボは孵化してから成熟するまでの期間をどこで過ごす？

1: 森 2: 高原 3: 林

問題②

絵のカエルは何という名前のカエルでしょうか？

ヒント「〇〇〇ニホン〇〇カエル」です。

問題③

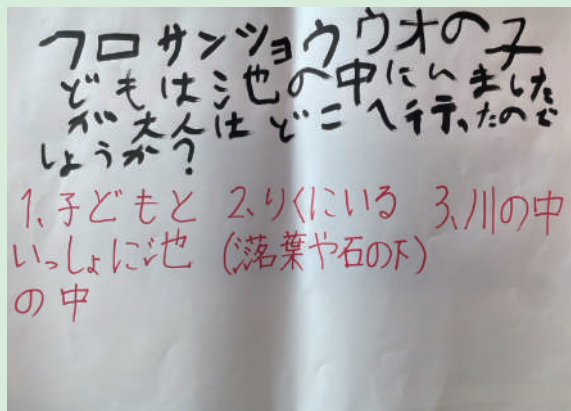
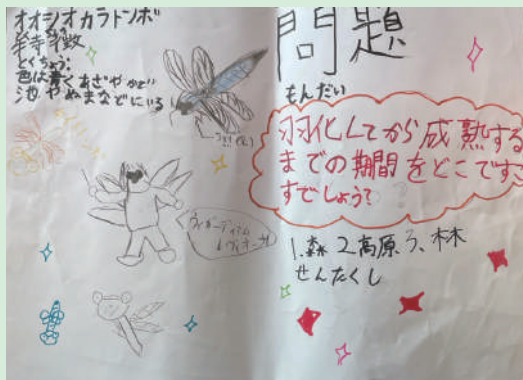
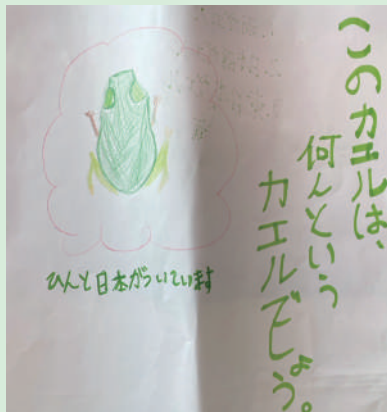
クロサンショウウオのこどもは池の中にいましたが、大人はどこにいる？

1: 一緒に池

2: 陸

3: 川

【答え】①⇒3 ②⇒ヒガシニホンアマガエル
③⇒2



企業オーナー ※掲載をご希望の企業様のみを掲載しております



2025 年度お届けするお米

今年も多くの皆様にご支援いただきました。誠にありがとうございました。

各コースの会員様へお届けするお米の量、ご参加いただいた会員様の口数は以下の通りでした。

お米のお届けについては、実績よりも多めの量を送らせていただきます。耕作、収量に関する詳細は下記や中面をご覧ください。

コース名	お米の量	会員数 / 保全面積
小口コース (保全面積 30 m ²)	玄米 7.5kg (精米で 6.7kg)	215 口 / 6,450 m ²
標準コース (保全面積 150 m ²)	玄米 34.5kg (精米で 31kg)	110 口 / 16,500 m ²
企業コース (保全面積 1,500 m ²)	玄米 345 kg (精米で 310kg)	60 口 / 約 90,000 m ²

耕作について

豪雪後の豊富な雪解け水から順調に始まった今年度の作付け。水に困らないシーズンになるであろうと思った矢先、田植え後の記録的干ばつ。作付けの終わりまで油断が許されない事と水の大切さを改めて痛感させられるシーズンとなりました。反面、長い間水がない状況にも関わらず稲は強く地面に根付き、様々な逆境に耐え抜く稲と田んぼの力強さに心強さも感じました。

田んぼを見ていても水が抜けづらい圃場、山水が常に田んぼに入る圃場については干ばつの影響を受けていない事が分かりました。圃場条件によって収量がまちまちではありますが、8月後半からまとまって降った雨のおかげで全体的に立派な稲穂をつけることができました。今年度のお米については「美味しさ」に加え、お米の「見た目」も楽しんで頂けると思ひます。

耕作面積が増え、水管理にも非常に苦しんだシーズンではありましたが、最終的には平均的な収量や品質を確保できたことについては、まつだい棚田バンクの成長も感じられる年となりました。気候変動の激しい昨今、棚田の耕作は「水」をいかに確保できるかが重要だと思ひます。様々な課題がある中山間の農業ではありますが、毎年一歩一歩解決し、より多くの田んぼを守っていききたいと思ひます。

事務局から

今年まつだい棚田バンクは、3月ころから米の不足が発生し、4月ころからお米の販売ができておりませんでした。また8月には、耕作しているすべての面積にたいして会員のお申込みがあり、年度の途中で募集を打ち切りました。

米価も大きく変動し、少しだけ販売している「大地の米」は25年度産については価格を見直し、1kgあたり約300円値上げしました。お米を取り巻く環境が急激に大きく変わってしまい、わたしたち自身が驚かされることが大変多い1年でした。ご支援くださる皆様と知恵をしばって困難を乗り越えていければと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。